

鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成23年2月4日)

述而第七

5 子曰く、^{しいわ}甚^{はなは}だしいかな、^わ吾^{おとろ}が衰^{ひさ}えたるや。久^{われ}しいかな、^{また}吾^{ゆめ}復^{しゅうこう}夢^みに周^み公^みを見ず。

孔子が言うには、何と私は衰えたことだろう。思うように身体も動かなくなってきたし、氣力もなくなってきた。夢で自分が理想とした周公を見なくなって、大分経ったものだ。私も年をとったなあという孔子の述懐です。

孔子は73歳で亡くなりましたが、この感慨は68歳で魯国に帰ってからのものです。

自分自身、又、現代に照らして考えてみると、色々な人と話しをして思うのは、「甚だしいかな、吾が衰えたるや」と人前で言ってもおかしくないのは、90代だろうと感じます。私は今60代ですが、70代、80代、90代の方と意識してお話をする機会を持つようにしています。そうすると70代は結構元氣いっぱいに見える方が多いですね。ただ奥様に伺うと、家に帰ると草臥れきってすぐに寝てしまうとか、70代も後半になれば、カラ元氣も少し見えてきます。80代になると周りの人も氣を遣ってくれるし、連日のように色々な用事を入れることもありません。お聞きすると、だいたい中2日お休みをとる人が多いように感じます。そして元氣のよい所だけ見せる。私の母親が90代ですが、90代になると中2日、中3日どころではなく、中1週間は置かなければいけないように見えます。

自分自身、「吾が衰えたるや」とは何歳くらいだろうか、まだまだ若いとされていては、ああと何年くらい続くだろうか、時々考えられるとよいと思います。

もし仮に理想的な人物を何度か夢に見たのであれば、そんな夢を見なくなったかどうか考えてみるとよいでしょう。何も夢に見るのは理想的な人物だけでなくよいのです。欲しいものであるとか、恋人であるとか、なかなか人に言いづらい夢も見るとして、夢の内容によって自分の年齢の進み具合を実感されるとよろしいかと思えます。

6 子曰く、^{しいわ}道^{みち}に志^{こころざ}し、^{とく}徳^よに據^{じん}り、^よ仁^よに依^{げい}り、^{あそ}藝^{あそ}に遊^{あそ}ぶ。

学問を修める順序を言っています。

孔子が言うには、道を行わんと欲する者は、必ず徳という考え方を拠りどころにするものである。私欲がまるで無くなって、心の徳が完全になったものを仁という。道と徳と仁

が実際の行為の上に現れたものを藝という。その藝に遊ぶような人間になれば素晴らしい。

渋谷栄一さんは亀井南溟という学者の説を取り入れて、この文章の解説をしています。今私が申しましたのも、亀井南溟の説をそのまま使わせて戴きました。

ここは、我欲で突っ張って生きているとろくなことはない。自然体が良いとお考え下さい。

私の母親は今、私の会社でやっている老人ホームにいますが、そこに 101 歳のおばあさんがいます。その方はご飯をほとんど食べないで、お風呂あがりに羊羹を食べていたりする。好きな時に好きなものを食べて、自然体で生きている。100 歳を過ぎると、自分流わがまま勝手が十分通用する、それでいて人に不快感を与えないという、結構いい人生を送っている人もいるのだなと思います。私欲もないし、自分自身の身体を気遣うくらいのもので、自己流でも自然流を通してしていると、いい人生が待っているのかなと感じました。

7 子曰く、束修しゅうを行うおこな自りよ以上いじょうは、吾われ未だいま嘗てかつ誨おしうるなこと無くなんばなあらず。

束修とは授業料です。この当時、人からものを教わるとか何か頼むような時は、乾し肉十本が最低限のお礼だったようです。

孔子が言うには、十本の乾し肉を貰った以上は、私は今まで教えなかったことは一度もない。

授業料を貰ったなら必ず教えている、といやに力をこめて言っているので、何か後ろめたいことがあったのだろうかと思ったり逆にそんなことを感じます。

今の政治家の人たちは、お礼や袖の下を盛んに催促するけれども、そのお返しなどは合法的にしないというのが日常茶飯事になっているので、この文章とまるで逆のことが行われているなと感じます。

8 子曰く、憤ふんせざればけい啓ひせず。悱ひせざればはっ発はっせず。一隅いちぐうをあ拳あぐるなに、三隅さんぐうをもつ以てかえ反かえさざれば、則すなわちふた復ふたびたせざるなり。

「憤」というのは、何かを知りたいと思って必死に知ろうという努力をするけれども、どうしても分からないで煩悶している、どうにも自分が自分でなくなっている状態ですから、ちょっとヒントを与えれば分かる。

「悱」とは、心の中で分かっているけれども口に出して表現することが出来ない状況です。孔子が言うには、覚えたくてむずむずしているような状況でなければ教えない。口に出かかってむずむずしているような状態でなければ、言い表せるようにしてやらない。

覚えたい・知りたいという煩悶が表情に出ているようなところまで自分自身の努力を重ねれば、教えた時になるほどと理解できるけれども、知りたくないとか覚えようという氣のない人間にいくら教えようとしても無理だということです。

教える時に、一つの部分を説明すると残りの部分が分かるようであれば、再びその人間には教えない。

一ヶ所を説明してあげれば、他の三つはこういうことだろうと類推して師匠に反問してくるような力を持っている弟子でなければ教えられないと孔子は言っています。弟子の中でも上の方の者には、こういうやり方をして鍛えたのだと感じます。

私は今まで、こういうやり方をしている教師にはお目にかかったことがありません。人生の教師と言われるような人には、こういうケースがあるのだらうと思います。自分自身のことを思い出してみても、学生時代に教室で教わったものは実に面白くないけれども、先生の自宅を訪ねていくと、色々面白い話をしてくれる先生がおられました。先生側の態度もかなりあるなと感じます。

9 し も あ もの かたわら しょく いま かつ あ し こ ひ おい こく すなわ
子 喪有る者の 側 に 食 すれば、未だ嘗て飽かず。子 是の日に於て哭すれば、則 うた
ち歌わず。

孔子は葬式で喪主のそばで食事をする時には、悲しみのあまり今まで十分満足して食べたことはない。その日、喪を弔って大声で泣き悲しんだら、その後は歌を歌わなかった。

歌を歌わなかったというのは、孔子は音楽が大好きで、歌も大好きだったということが前提条件で分かっていると、ピンと来ないと思います。

今日の論語で感じたのは、「甚だしいかな、吾が衰えたるや」という部分です。昨日、私は人間ドックに入りました。1年前の人間ドックで、減量するように言われまして、その時は体重が 82kg くらいありました。1ヶ月 1kg くらいのペースで落とすように言われまして、昨日ドックで測ったところ、ピタリ 12kg 減っていました。お医者さん曰く、「普通、

計画は誰でも立てるのだけれど、計画通りに実行する人は滅多にいないのです。あなたはそのまま続けていくと低血糖値になるから、減量はおやめなさい。もう十分合格ですよ」と言われホッとしました。しかしながら体重を 12kg 落としたら筋肉が減りましたので、知らず知らずの間に皺が増えました。吾が衰えたるや・・・と自覚しています。